

南伊豆町伊浜肥田家文書調査について 岡村 龍男

伊豆急下田駅から車で約1時間、南伊豆町の中心部を抜け、さらに妻良・子浦といった漁村を抜けると、南伊豆町の最西端、カツオ漁や全国シェア1位を占めるといふマーガレット栽培で知られる伊浜地区にたどり着く。集落内の大半の道は、軽自動車を通るのがやっとの道の広さで、歩いて移動した方が早いくらいである。

2015年5月1日から4日にかけて、歴史資料継承機構は、この伊浜地区に残された肥田家文書の調査を行った。肥田家文書は、2014年11月に南伊豆町教育委員会からご紹介いただき所在調査を行い、今回が初の本格的な調査となった。肥田家は、江戸時代に伊浜村の名主を勤めた家であり、江戸時代に編さんされた地誌である『豆州誌稿』や『掛川誌稿』にも、肥田五郎右衛門が古くから伊浜村の名主を勤めているという記述がある。

今回の調査では、伊浜公民館に保管されている同家文書の中でも、箱にフタがされておらず文書が「露出」しているものについて、現状記録・封筒詰めと目録作成を行った。筆者は、箱7の現状記録を主に担当し、総点数400点を越える文書を確認した。内容としては、明治時代の土地関係の文書、特に地租改正に係る土地調査の文書や地券が多く確認された。しかし、現状記録を行った段階でもシバンムシ・シミ・クモなどの害虫が多くおり、さらに箱が長い間ネズミの巣になっていたようで、史料の保存状態は必ずしも良好とは言えない状態であった。

今回調査した中で特筆すべき文書として、明治15年の戸籍簿が挙げられる。当時の村の戸数・家族構成や一人ひとりの生年が把握できる文書である。驚いたことに、この戸籍簿で戸主として記載されている人名が、伊浜地区では今でも各戸の「屋号」として使われている。「おはようございます、○右衛門で

す」や「○蔵さんのところへ行ってくる」など日常会話、また、公民館の壁に貼られていた地区の電話番号表も、名前ではなく屋号で書かれていたのが印象的であった。

さて、肥田家文書の所蔵者である肥田家の血筋の方は伊浜を離れており、文書だけが伊浜公民館に保管されている。伊浜には、他にも家を残して普段は他所で暮らしている人がいると聞いた。筆者は以前、「地域に残された『転出者所蔵史料』の調査と保存」について検討したことがある（「NPO 歴史資料継承機構第9回例会」（2013）及び「掛川市中 熊切願夫家文書調査について『じゃんぴん』14号、2013）。数千点に及ぶと思われる肥田家文書の調査には、長い時間がかかることが予想されるが、調査と並行して、こういった「転出者所蔵史料」をどのように保存・継承していくのかについても考えていきたい。

伊浜地区の
目の前がすぐ
海である。
集落が坂に沿っ
てある。



◀2014年11月撮影。
文書が露出している
様子。



現状記録写真。▶
番号札を置いて上から
一点ごと史料に番号を
付けていく。





はじめに

活動の4つの柱のうち今年度の「普及」事業を提示します。「普及」はその年の活動の成果を所蔵者や地域の皆さまにお知らせする事業です。今回は、課題となっていて現在取り組んでいることもお伝え致します。

佐橋冠左の数寄の世界

近代の茶人・華道家・作庭家など数寄者であった佐橋冠左を中心とした調布市佐橋家文書の保存・調査活動の成果について2014年5月17日『佐橋冠左の数寄の世界』を佐橋邸にて開催致しました。昭和初期の建築で修復が済んだ佐橋邸の解説も行いました。

報告：西村慎太郎「佐橋家文書と歴史資料の継承」
薄井温子「旧佐橋邸建物について」



→ 報告会の様子

→ 佐橋邸の解説

南伊豆を知らう会

今年度で第7回を迎えた2014年11月22日の『南伊豆を知らう会』。南伊豆での文書保存・調査活動の成果を年に一度お知らせ致します。

第7回報告タイトル

- ・平岡崇「南伊豆の近代行政文書 -旧南中村上賀茂を事例に-」
- ・増田亜矢乃「上賀茂村における川除け普請」

詳細は各報告書・ニュースレター『じゃんぴん』として刊行しています。お求めは下記の【連絡先】までご連絡ください。

報告書「南伊豆を知らう会」vol.1

- ・泉田邦彦「震災から三年を経た警戒区域のいま -被災した地域と歴史資料のゆくえ-」
- ・西村慎太郎「南伊豆に伝わる武道秘伝書」
- ・武子裕美「棟札と中木地区の神社」



『じゃんぴん』

報告書

茨城史料ネットとの協働

現在も茨城史料ネットと被災資料の保存・調査活動を進めています。そのうち北茨城市内での成果は地元での展示・講演会に結実し、当会では展示のパネル・キャプション作り、講演会での報告を行ないました。展示した文書の一部は当会より東洋美術学校へ修復を依頼したものです。展示のみならず講演会の添田仁さんの報告「『発見、された敵討一平袖と平瀧にて』」にも生かされました。

詳細は茨城史料ネットの刊行物・ホームページなどをご覧ください。
【<http://ibarakishiryu.web.fc2.com/>】



→ 講演会の様子

↑ 修復前 修復後↑

千葉県我孫子市安島家文書

歴史資料は救出・保存しただけでは十分ではありません。利用できるように環境整備をすることで始めて意味が出てきます。現在、当会の「普及」事業ではこの点が大きな課題として遺されております。

そこですでに作業が終了している我孫子市安島家（水戸藩士・近代の水戸及び一橋徳川家へも出仕）の文書については来年度ホームページでの画像・目録公開を目指します。



HPリニューアルしました。
<http://rekishishiryu.com/>



これまでの活動場所



昭和のくらし博物館蔵戦争関係資料保存・調査活動に参加して

松本 美虹

2015年3月6日(金)、大田区にある鶏の木特別出張所にて、昭和のくらし博物館蔵の戦争関連資料の整理を行いました。作業場所は博物館の近くであり、博物館の講座を行う際に使用することもあるようです。

昭和のくらし博物館は以前より興味があり、来館したいと思っていたのですが、一度も来館したことがありませんでした。今回の資料保存・調査活動をきっかけに伺うことができ、とても有り難く思っています。

今回の作業では、昭和のくらし博物館で所蔵している戦争関係資料の整理、記録、撮影を行いました。各分類に分けた資料を入れた箱をそれぞれが担当し、箱内の各資料に分類名と番号を明記した札を付け、資料名、計測値、年代などを記録していきます。その後、撮影担当が撮影を行います。

私が担当した資料は、着物、防空頭巾、お守り、出征旗などで、個人的には戦争関係展示でよく見かける資料でした。出征旗は出征する方の氏名が鮮明に明記されており、比較的大きな資料なので、展示資料としては見応えがあるかと思われました。

資料整理中、特に印象に残った資料がありました。それは髪の毛です。字が明記された紙で、髪の毛が包まれていたのです。初めて見た時は、紙資料だと思っていたのですが、身近で確認した際、折り曲げた紙の内側に髪の毛が入っていました。今まで戦争関係資料に触れる機会はありましたが、同様の資料

を拝見したことはなかったので、とても勉強になりました。その他の資料としては、子どもの遊び道具、手紙などの多様な資料がありました。

今年は、第二次世界大戦から70年という節目の年です。そのため今年の夏は、戦争関係展示を行う博物館施設が多いと予想されます。展示を契機として、戦争関係資料の整理を行う施設が増加することを期待します。また、既に整理済の資料を再確認することも重要だと考えられます。戦後70年ということは、戦時中に使用されていた資料は70年以上前に使用されていたこととなります。仕事で同時期の資料を扱うことはありますが、やはり戦争関係資料は他の生活用具とは異なる性質を持っていると思われます。

かつて人々が暮らしの中で使用してきたものを保存・調査することは、過去に起こった戦争、当時の人々が考えていたことを知る手がかりとなります。また、それは現在の自分たちの暮らしを再確認することにも繋がります。今回の活動に参加させていただいたことで、貴重な経験ができ、以前よりも戦争を身近に感じることができました。



▲髪の毛や爪



▼防空頭巾

活動報告

- 2月15日 ニュースレター『じゃんびん』vol.18刊行
- 2月14日～15日 「全国史料ネット研究交流集会」ポスター展示
- 2月15日 青梅マラソンボランティア
- 3月6日 昭和のくらし博物館蔵戦争関係資料保存・調査活動
- 3月14日 長野県立科町講演「地域に残る歴史資料の保存と活用」(西村慎太郎)
- 3月27日 静岡県掛川市熊切家文書調査・保存活動(協力)
- 4月13日 ホームページリニューアル
- 4月19日 東京都調布市佐橋家文書保存・調査活動
- 4月26日 神城断層地震(長野県北部地震)歴史資料保全活動(協力)

- 5月1日～4日 静岡県南伊豆町肥田家文書保存・調査活動
- 5月23～24日 歴史学研究会大会にて展示出展
- 6月11日 千葉県野田市小林家文書保存・調査活動
- 6月11日 千葉県流山市岡田家文書保存・調査活動
- 6月20日 2015年度総会開催・第15回例会開催
- 6月21～22日 茨城史料ネット福島県内文書保存・調査活動協力
- 6月24日 茨城史料ネット報告「石岡一色家文書の世界—茨城史料ネットのレスキュー活動紹介—」(西村慎太郎)
- 6月27日 埼玉県加須市加藤家文書保存・調査活動

その他、毎週水曜日に茨城史料ネットの活動に協力
東洋美術学校での文書修復作業(朱文筵・茨城史料ネット)

第14回例会

【自然史資料を守り・伝えること

—水戸市立博物館の活動から— 加唐 亜紀

2015年1月24日(土)に学習院大学で行われたNPO法人歴史資料継承機構(じゃんぴん)の第14回例会に参加しました。以前千葉県松戸市で行われた戸定歴史館の学芸員・斎藤洋一先生が講師を務められた回に続いて2回目の参加となります。

地方の博物館の活動に興味があって参加したのですが、なかなか厳しい現実があるようです。

まず、講師をつとめた水戸市立博物館藤井達也先生の研究対象が日本中世史であるにも関わらず、仕事ではまったく専門外である自然史の学芸員を務めていること。学芸員として採用された訳でなく、水戸市の職員として採用されたため人事異動によっては別の部署に異動になることもあること。前任者との引き継ぎがまったくなかったことで、最初は何がどうなっていたのか解らなかつたこと。保存されている資料は、手書きで紙の台帳によって管理されていること。予算がないため資料を購入することができず、自分でついたり、コレクターの方から譲ってもらったりしていること、自然史資料は個体が大きく場所をとるため保存場所にご苦労されているようです。また、自然史の資料である動物のはく製や昆虫の標本は虫が付きやすく、ついてしまうと駆除するのが大変で、完全に駆除するのが難しいそうです。

藤井先生のお人柄なのか、コレクターの方やNPO活動を行っている方々と良好な関係が築かれつつあり、資料のつくり方を教えてもらったり、展示会で使うデータを提供してもらったりするなどしておられるとのこと、こうした人々の存在が博物館の活動に欠かすことになっているようでした。

自然史だけでなく、絵画や歴史分野などでも貴重な資料を持っている博物館ですので、所藏品リストを整備することなど前任者が異動になると何があるのか分からないということがなくなればよいと思います。

神城断層地震(長野県北部地震)

レスキュー

武子 裕美

2014年11月22日長野県北部で震度6弱を記録する地震が発生した。白馬村や小谷村などで全壊・半壊した住宅は200以上あり、一部損壊も含めると2,000以上の住宅が被災した。当法人では、地震発生後11月26日付で「神城断層地震(長野県北部地震)に伴う歴史資料保全について(お願い)」という声明文を発表し、『じゃんぴん』Vol.18にも掲載した。

しかし程なくして雪の時期を迎える現地では、歴史資料を救出することが中々困難であった。そして春の雪解けを迎えた2015年4月26日、建物修復支援ネットワーク代表長谷川順一氏などからの呼びかけを受けて、現地入りした。最初に入ったのは、大庄屋を勤めたことがあるという旧家の蔵である。建物にはあちこちヒビが入り、床も割れていた。その蔵の2階に文書や民具が置かれており、それらを運び出す作業を行った。近世から近代までの文書や民具が運び出された。文書は文書タンスに整理された形で慶安の文書などが見られ、さらに棚からは近代の書簡類が救出された。

その後、史料救出のお願いを記したチラシを、被災した住民の方々に渡すため、現地を歩いてまわった。しかし、雪の影響があったために、倒壊した建物はそのままになっており、さらにライフラインも復旧していない現在、現地に残っている人は多くはない。おひとり話を聞けた方は、長野市に住まいを設け、畑仕事のためにこちらに通っているという。雪の影響ですぐに建物が撤去されることはなく、史料はそのままの形で残されているという点は良かったのかもしれないが、逆に復興が行われず人が去って行くという現状になっている。今後もできる限り史料レスキューのお手伝いをしていきたい。



▲倒壊したままの家屋

NPO法人 歴史資料継承機構
News Letter
じゃんぴん Vol.19

●発行●

〒198-0063
東京都青梅市梅郷3-863-2西村方
NPO法人歴史資料継承機構
E-mail:info@rekishishiryō.com
URL:http://rekishishiryō.com/

●発行者●

NPO法人歴史資料継承機構
代表理事 西村慎太郎
編集:武子裕美
イラスト:朝倉麻子

